

## Contents

主体性とは	*3
空想過酷小説	*4
幸せな思考	*5
獣の印	*6
主観性とは	*8
秋日メモ	*9
サンプルまでに	*10
こぼしつつ歩く	*11
奥ゆかしさ	*12
曖昧な日々	*14
いのちだいじに	*15
草茂る	*16
仙境	*17
名前について	*18
ハードモード	*19
あとがき	*21



## 主体性とは

車の助手席に乗って病院へ行く  
アル中たる僕は運転などしない  
母がする

通る自転車の若い女が僕の車を見て  
もうやだ～というとてもイヤな顔をする

ごめんねえ、僕だってイヤなんですよ  
そも病院に行きたがっているのは  
僕じゃないんですから

はっ、言ってなよ  
相手が焦がれた男とも知らずに

そうなんですか？  
そうかどうかは知りませんが

ああ  
身体がしくしくと痛い

## 空想過酷小説

彼女には事物より観念の方がありがたかった  
観念のためとあらば事物を曲げることすら厭わず

マンデラ・エフェクトですか  
あれは本当に事物が歪んだのだ

それはまあいい  
どちらに話を広げようか

骨身に沁みてわかったことではないのだ  
僕が骨身に沁みているころ素通りしたではないか

寂しかった  
僕が絶望の淵にいるとき、人は笑えるということ

そりゃそうでしょうな  
僕がどこにいるか知りませんからな

世界の片隅の最暗部  
それを知っての糾弾かというところではない

そうではないのなら幸せでいるほうがいい  
ではないか、ではないか

屈辱の内に現実を発見なんてことになる前に

## 幸せな思考

天罰とは思わない

しかし古代人は災難があれば

神の怒りと見る向きもあった

現代人ももう少し信心深くなってもいいように思う

しかしこうは思う

僕の体が痛んでいたからだ

僕の代わりに人が倒れている

ような気がしていた、ずっと前から

あるじゃないですか

人形とか紙に厄を移して

代わりに紙が燃えて本体は事なきを得るみたいな

そうでなくても

あなたの痛みを代わりに受けてあげたいと

願っていた人のなんと多いことか

ではどうするか

僕の体がよくなれば問題は解決する

僕流に、オカルティックにやるのさ

というわけで断酒

これができれば問題ない

幸い、危機感がこれを可能にした

どうして僕の体がそんなに重要かって？

皆が僕のことを気にかけてくれているからです

## 獣の印

あなた開催派？ 中止派？  
あなた打つ派？ 打たない派？

至る所で分断と対立を煽った  
それがやり切れぬ

打つ者は従う者だ  
打たない者は従わない者だ

従わない者は皆○しだ  
などということにならなければいいが

ここで陰謀論者、打ったら死にます  
なんだってー

と、どうしてこう  
前門の虎、後門の狼のようなことに

こうなれば公式も胡乱<sup>うろん</sup>と留めたうえで  
未知の治験に命を供する

僕のお家の形態によるとそうになってしまう  
アブラカタブラ、アブラハム



## 主観性とは

アイドルが崖登りをできなくても問題はない

きつとこんなご時世では  
ありったけの賢明さと清廉さが必要になる

権力者にどちらもないのは明らかだから  
悲しいかな、庶民の内にそれをまま見つける

死んで二階級特進とかやめてもらいたい  
やめるとなったらなあなあで済ますのも

主治医がやめました、首相もやめました  
もしもを睨んでの賢明な判断？

おお、かようにすべては僕を中心に回り  
他の良きも悪きも僕に従う

という具合に、どういう具合でも  
過ごしていけたらいい



## 秋日メモ

鈴虫が鳴いている  
空気が肌寒くなり

数日後、銃殺隊の前に立つ  
そんな気分にいる

それが終わったら  
死後の生活を始めるように

ああ、僕は命を賭した  
君は何を賭けるんだい

と、政治家諸氏に問う  
これは伊達<sup>だて</sup>や誇張だが

僕がそう感じていた  
という事実が大事なのだ

## サンプルまでに

昨日、毒を受けた  
この毒を解毒することに  
残りの一生を費やそうと思う

なるほど、こりゃきついわ  
妊婦や子供に与えられるものでは  
到底ないな

内臓に裂けみを感じる  
ピリッとプチッといくのを感じる  
効いてる効いてるとか思わない

公式に則ってさえいればいいという人たちが  
これで目にももの見るんですね  
って僕も食らってしまったが

僕は生まれてきた  
二度でもう十分  
と心を新たにしました

こぼしつつ歩く

昔、タバコはやめたと書いたことがある  
やめたほうがいいですよとまで

吸ってるじゃないですか  
あの時はやめてたんだよ、ひと月くらい

そしてやめたと書いたことで  
こぼれ落ちるものがある

宝くじ当たった人もそうじゃないですか  
当たったと言ったらもう何も残らないと

以上のことから欲しいものを得たら黙れとは  
至言であり、心掛けたいもので

今、僕はわりと欲しいものを得ている  
優雅な暮らし

ほう、じゃあもう少し黙らなきゃな  
と戒めつつキセルを燻<sup>くゆ</sup>らせるのだった

## 奥ゆかしさ

I love you を月がきれいですねと訳したとの  
俗説に泣けてくる

そんなことでどうやって致すというのか  
そして単に月がきれいな時どう言えばいいのか

曖昧なもの、それはフランス語ではないとある  
曖昧なもの、それは日本語であるとも言える

こんなにいい香りなら  
香源はさぞかし臭いに違いない

得られたものはもう未知ではない  
得たとたんに興味をなくす

これはずいぶん失礼な話だよ  
サムシングニューね、探し燃えてるのね

そういうわけで動画作りも詩集作りも  
熱狂は制作途上にのみあり

もう飽きちゃった～って  
続けましょう、続けましょう

人は、世界を安く見積もることで  
世界を征服したことになる

しかし奥はもっと深い  
といいのだが



曖昧な日々に

この不安な社会情勢にあって  
核心をえぐれるような詩でなければ無意味

核心なんてえぐってもらっちゃ困るんだよ、君  
もっと幸せな夢とか希望とか

そうかもなど、詩とは何か考えることをやめて  
とりあえず書いている

生活様式は変わったかい？  
僕はあまり変わってなかった  
一足先に幽霊になっていた僕は

一つの問題が  
より大きな問題にとってかわられ  
問題じゃなくなることがある

そしてつぶやく  
あの頃は幸せだったなあと  
不満たらたらだったくせにね

いいんじゃないかな  
一病息災ですよ  
もう痛飲もできまい

いのちだいじに

わかります？ わかりませんよテレビ音

フォロワーの奪い合いだよ、さもなくば……

アフリカの諺遠しサバンナは

僕、ベジ子。なので一人で行きますわ

神として生くより人とし死なんとす

これからは毎日ワクワクキリキリと

## 草茂る

政治に関心ないとか言っていると  
君らの子供が戦争に取られちゃったりすると  
逝ったロックンローラーが言ってた

それはそうかもしれないが  
無理からぬことかもしれない

自分が影響を与えられないことで  
くよくよ悩むのはバカげていると  
これは海外のロックンローラーが言ってた

この国の政治は  
自分が影響を与えられないことの分類なのだ

しかし庶民は強い  
どれだけ倒れようとも人海戦術だ  
そして為政者に問い続ける

こんなことしてくれちゃっていいと思ってるんですか、君たちい〜と



## 仙境

今朝は鮭を焼くわ～

鮭だけじゃ少ないから昨日の残りの唐揚げも二個あるわ～

鶏肉が少しだけ冷蔵庫にあるから

キャベツともやしも炒めて野菜炒めを作るわあ

うどんと合わせて鍋焼きうどんにしましょう～

with drink? oh yeah

困ったね、こりやどうも

長期的な目標を手放したうえ

失意のどん底で

手放さなきゃいいんじゃないかな

手放さざるを得ない

泣いて馬謖<sup>ばしょく</sup>を切った孔明の気持ちがよくわかる

馬謖もう何十人目かなんだけど

大丈夫なんでしょうか

ジェ、ジェノサ……そんなことないよ

元より立ち直すすべのあるものか

仙人のように隠居して静かに暮らそう

## 名前について

いいねをつけるかつけまいか  
名前で決めてる節がある

女なら寄り男なら引き  
おお、ゲスい、しかし正直な

しかるに君は始めから喧嘩しに来てる  
僕の名前知ってるか

僕はドラゴン  
君、ドラゴンキラー

仲良くできないだろう  
他にも虫や動物だったりするとどうも

半分くらいそんな理由で  
内容のいかんでなく

だから気にせず書こう  
目に触れる人、触れぬ人

## ハードモード

ぬかの手入れをし朝食を作りながら考える  
誰もこんな風にはできないのだと

PC に更新をかけながら考える  
誰もこんな風にはできないのだと

生活が複雑になりすぎた  
多く一般人が置いてけぼりになる

僕にできないことは  
役所の手続きや月の生活費を下すなど

父母がやってくれている  
家族で家を切り盛りする

しかしそれも多くは  
できないのだと

またうちがよければそれでいいというものでもない  
この<sup>ろうばい</sup>狼狽は多く他人のためにある



## あとがき

この詩集は、八月から十一月にかけてネットに投稿した作品を十五選んで収めた。散逸してしまうのは惜しいので、まとめた。

双方向発信型の詩作は楽しいもので、すぐこれくらいは溜まっていく。しかし、今でも手紙を瓶に詰めて海に流すようなメッセージの投げ方にも憧れている。今はゴミを流してはいけませんと叱られるだろうか。

作品そのものを味わってもらうには、やはり本の形になっているといいだろう。手に取ってくださった方に感謝である。

2021 年 11 月 10 日

多田龍介



# 秋日メモ



2021 年 11 月 10 日 初版発行

著 者 多田 龍介

発行者 多田 龍介

発行所 明 水 工 房

©Ryusuke Tada 2021

